

ランチオンセミナー 1

〔10月3日（金） 12：00～13：00 D会場（第3・4展示場）〕

オーラルケアの新技术～食品からのアプローチ～

1. プラークコントロールの新技术～オーラルケア食品～

菅野 直之（日本大学歯学部歯周病学講座准教授）

歯周治療は、機械的プラークコントロールが主で、これを補完する手段として、抗菌剤を用いた化学的プラークコントロールも行われている。しかし、歯周治療における抗菌剤の使用は、耐性菌の増加につながる事が報告されている。

近年、抗菌剤に頼らない歯周治療の手段として歯周病原菌の病原因子を標的とした受動免疫療法の開発研究が行われており、*in vitro*においてgingipainに対する鶏卵抗体の効果が確認され、*P. gingivalis*が優位な歯周病患者の歯肉縁下に同抗体を投与したところ、スクレーピング・ルートプレーニング後の本菌のリバウンド抑制や臨床症状の改善効果が見られた。

今後、機械的（物理的）プラークコントロールが主であるこれまでの歯周治療に加え、ワクチンやプロバイオティクスを用いた生物的プラークコントロールが、新しい歯周病の予防あるいは再発防止の有効な補助的手段になるものと期待される。

2. オーラルケア食品素材「オーバルゲン®」とは

磯田 理絵（株式会社ゲン・コーポレーション抗体事業カンパニー研究開発部）

鶏の母子免疫システムを利用してタマゴに機能性を持たせることができる。この技術を応用して虫歯や歯周病を予防・軽減する食品素材が「オーバルゲン®」である。この素材をタブレット等に加工して摂取した結果、齲蝕や歯周病の原因菌である *S. mutans* や *P. gingivalis* 菌の減少や、歯肉の臨床症状の改善効果が確認された。

すでに実用化された製品を挙げて、オーバルゲン®の技術と効果をご紹介します。

※ランチオンセミナーのチケットは、ビーンスターク・スノー社の展示ブースにて配布いたします。